

して分類的に読みあげられたに過ぎなかつたのは残念であつた。折角の材料であるからもつと研究的方面に生かして使つて欲しかつた。

□横須賀港の沿革、話は流暢で結構であつたが事柄の複雑なところは、聞き手が一々首肯してゆくのに稍早すぎたかと思はれた。さういふ方面にも注意して戴きたいとおもふ。しかし、この種の材料としては退屈の感じを起させなかつた様である。

□英語朗讀、爽かでもうほひもあり、聞いてゐて心持のよいものであつた。

□國語の朗讀は他の一人が立つてこの朗讀に關して研究したところを述べられ、次に朗讀があつた。この一篇を讀むには凡そ五分間を要し、一分間、三百一字強にあたるさうで、文章の中に表はれた景物を活躍せしめやうといふ試みであつた。苦心のあとには十分見えた。この種の研究のますます盛にならん事を切望する。

□最後に澤村先生の近世日本畫の二傾向の變遷に就いてのお話があつた。上野には文展も開かれてゐる此頃多大の参考となるべき智識を得ることが出來たことを喜ぶと同時に、お忙しい時間を我々のためにお割き下さつたことを感謝いたします。

第十二回文藝學術協會理事會

第十二回會計決算報告

(自大正四年六月二十四日 至大正四年十二月十日)

一、收入金額 八五、八八

内 譯 三、八八、一〇
 第一學期繰越高 三、八八、一〇
 贊助員十九名會費 二、四、五〇〇〇
 會員一四八名會費 二、二、〇〇〇〇
 五月迄ノ利子金高 三、七〇〇〇

一、支出金額 六二、一〇〇

内 譯 五、六、七六〇
 會誌第十二號四百八十部印刷代 五、〇〇〇〇
 會誌發送料 三、四〇〇〇
 雜費

一、差引殘高 二三、七八〇

右之通り相違無之候也

大正四年十二月十日

文科會會計係

會費領收

大正三年度分

錦織こうじよ 野田マサ 廣間ひで 山根鈴榮

大正四年度分

山川ハッノ 工藤シゲ 山中シゲ子 森さみ 菅野けい 長澤 栗

研究

次 目

築建の廟光日

(年三部二科文)

大正二、三年度分
魚住しげの 湯川タキ 松原ミチ 瀬尾えい 鷺尾幾子 田邊きわ
大正三、四年度分
浅田房野 谷中きく
大正四、五年度分
山野すみれ

會 員 動 靜

一、宿所變更

清水俊尾 (三重縣龜山女子師範學校)
島津みち (府下八王子府立第四高等女學校)

一、退 會 者

林 文子 西村菊衛 堤 はな

一、現在會員數

客 員 三十三名
贊助員 二百七十二名(校内十一名、校外二百六十一名)
在校會員 百四十八名

一、退 會 者 八 名

第十二回會報掲載書 (至大正四年十二月十日)